

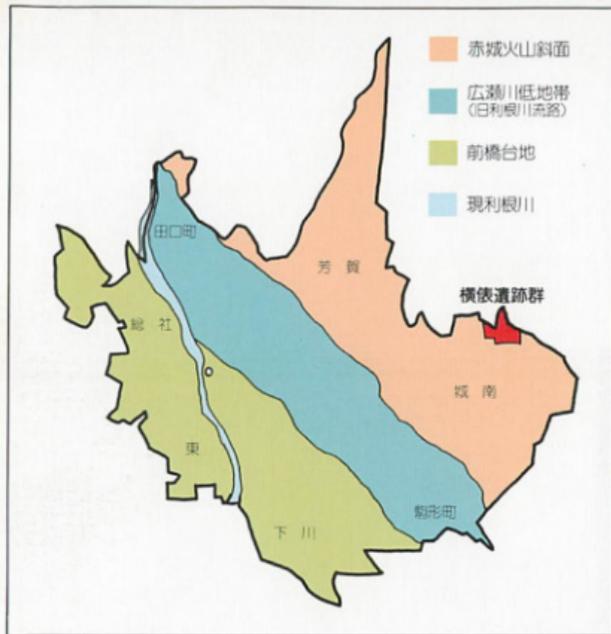


横 俵 遺 跡 群

1989

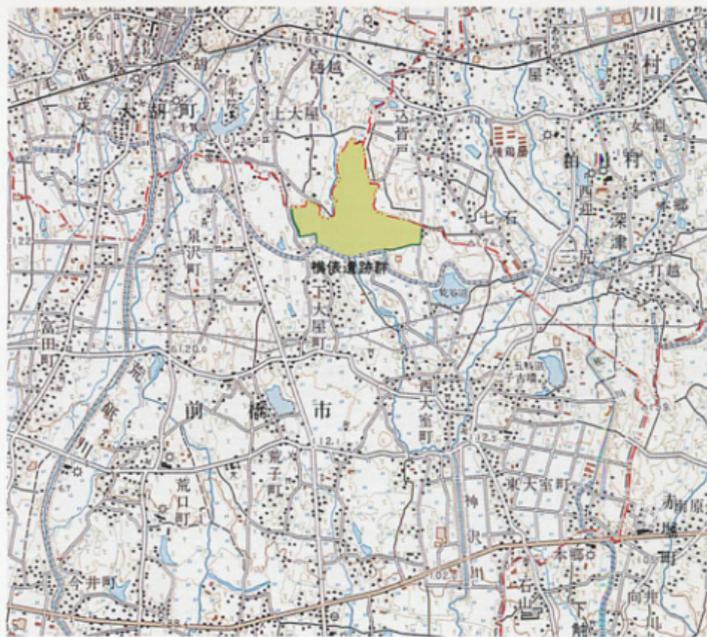
前橋市教育委員会

# 横俵遺跡群の位置



前橋市の地形は、大きく三つに分けることができます。市の東部の城南地区から北部の芳賀地区にかけて広がる赤城火山斜面・田口町から市の中央部を通り、駒形町まで続く昔の利根川の流路である広瀬川低地帯・市の西部の総社・東地区から利根川をはさんで上川・下川地区にかけて広がる前橋台地の三つです。

横俵遺跡群は、たくさんの遺跡が残されている赤城火山斜面にあります。



横俵遺跡群は、前橋市東部の泉沢町・下大屋町・西大室町にまたがっており、北は勢多郡大胡町・東は同じく粕川村に接しています。

遺跡のすぐ南には、大正用水が東へ流れており、八光沼・横俵沼・乾谷沼などの農業用の溜池も見られます。

横俵遺跡群がある城南地区は、古代の遺跡の宝庫とされている地区で、土地改良に伴う発掘調査などで旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代及び中世・近世に至るまで多くの遺跡が調査されています。

横浜遺跡群の調査は、飛田工業団地の造成に先立ち、昭和63年12月から試掘調査から始められ、全体の面積が約53000㎡のとても広い地域での発掘調査となりました。調査は大道、横巻・大久保・熊の穴の4地区に分けて行なわれており、この写真集は調査第一年次に実施された大道遺跡並びに付地内を通る市道586号線の新設に伴う熊の穴遺跡での調査記録をまとめたものです。

熊の穴遺跡

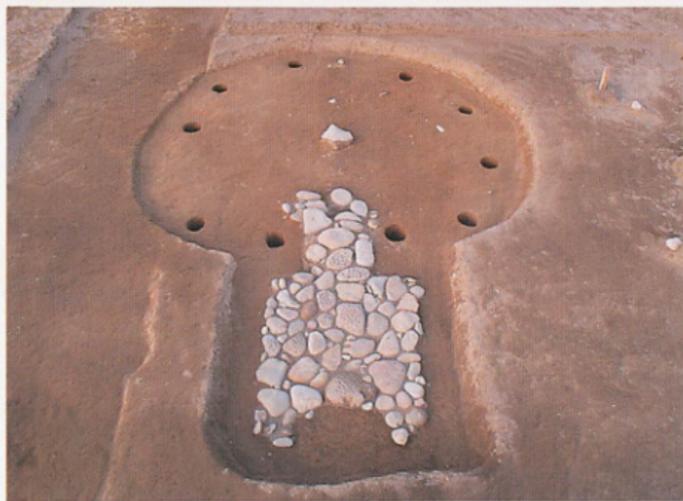
上横巻古墳群

大道遺跡

神沢川



# 縄文時代の調査



大神遺跡や熊の穴遺跡では、今から何千年も前の縄文時代の住居跡やお墓の跡がたくさん見つかりました。

上の写真は、柄杓形の住居跡で、家の中に石が敷かれているところから敷石住居といわれているものです。

円形の住まいの部分には、10個の柱の穴がありました。また、中央部には、炉（いろり）の跡もありました。

右の写真の中央部には、村の人達のお墓の跡と思われる石で囲まれた穴がたくさん写っています。





3



5



6

左の写真の土器は、いずれも縄文時代の土器です。1, 2, 3, は深鉢と呼ばれるもので食料の貯蔵や煮炊きに使用されていたものと思われます。3の土器は、残念ながら上半分がありませんでしたが縄文土器の特徴である縄目の文様がよく出ているのがわかります。4, 5は、注口土器と呼ばれるもので、今のやかんやどびんに良く似ているものです。きっと何かおいしい飲み物でも入れて飲んでいたでしょう。6は、浅鉢と呼ばれるもので、直径が40cmほどもあり、口の周りにはかざりのためのものか、たくさん小さい穴が開られていました。



岩偶



土偶



土偶



土器につけられた人面



石棒



ミニチュア石棒(約5cm)



耳飾り



耳飾りの出土

左の写真は、お墓と思われる部分とその周りから発見された特殊な土・石製品を集めたものです。岩偶や土偶・石棒・土版などは、お祭りやまじないのときに使われたものと思われます。岩偶や土偶は、女性をがたどったもので、女性は子供を産むということから豊かな実りを願って造られたのかも知れません。ただ、全身がそっくりそのまま見つかることはまれで、ほとんどが壊された状態で発見されます。また、アクセサリーとして使用したのでしょうか耳飾りも何点か見つかっています。



土偶(胴)



土偶(胴)



土版(胴)

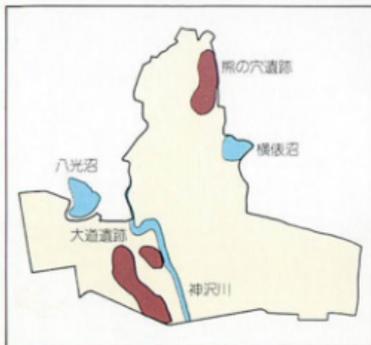


土偶(足)



土版の出土状態

# 古墳時代の調査(前期)



上の写真は、今から約1600年くらい前の古墳時代前期に生活していた人の住居跡です。一边が約5~6mの大きさで、ほぼ正方形の形をしています。家の中からは、五箇の柱穴が見つかりました。また、当時使っていたと思われる土器もたくさん発見されました。この時代の人たちは、まだカマドというものを知らないので、縄文時代と同じく炉(いろり)で炊炊きをしていました。大道遺跡ではおよそ40軒、熊の穴遺跡では10軒ほどこの時期の住居跡が調査されました。



## ◀ 焼失住居

この住居は、どうやら火災にあったらしく、焼けこげて灰のようになった建築材が床一面に散らばっていました。炉で炊炊きをしてきたために燃えやすい材料で造ってある家は火災に合いやすかったのかもかもしれません。(熊の穴遺跡)



## ◀ 土器の出土状況

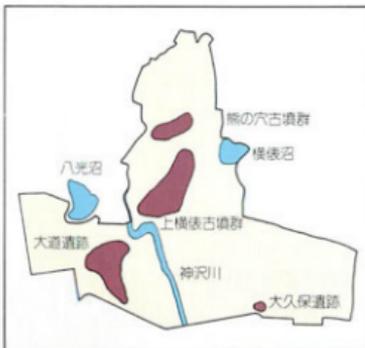
左の写真は、住居跡から掘り出された土器を写したものです。そっくりそのままに横になって見つかったのが、カメの底に台が付いている台付きカメと呼ばれるもので、その隣にも同じような小型のカメがありました。(大道遺跡)



## ◀ 発見された土器

この時代になると縄文時代にさかんにつけられていた文様は、ほとんど無くなり、土器の厚みも薄くなります。このような縄文土器とはやや異なる飾りの少ない実用的な土器が古墳時代には使われるようになります。上の三つはカメで、下の左にあるのは、米をふかすために使われたコシキと呼ばれる土器です。(熊の穴遺跡)

# 古墳時代の調査(後期)



古墳時代の後期になると煮炊きは炉に代わりカマドで行なわれるようになります。カマドは、粘土で造られており、上に穴が開けられていて、土器がスッポリ入るようになっています。

上の写真の正面に見えるのがカマドで、発見されたときには、上の部分はくずれていてありませんでした。

カマドの右手と家の隅からは貯蔵穴が見つかりました。また、5個の柱穴もありました。大道遺跡では、およそ50ほどのこの時代の住居調査が行なわれました。

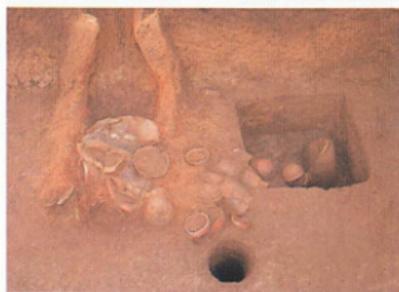


## ◀ 住居跡の調査

住居跡の調査は、まずいろいろな土を機械で取り去り、そのあとは手作業で進められます。何百年もの間に家の中に積もった土を慎重に掘ってゆきます。途中で土器が出るとそれを残してまた掘ってゆきます。

遠くの方には、まだ調査されていない住居が黒いしみのようになって見えています。

(大道遺跡)



## ◀ 住居跡からの土器の出土

みなさんの家の台所に食器がたくさんあるのと同様に住居のカマドの中や近くからは、たくさん土器が見つかります。この写真からは、カマドがつぶれたときに落ちた土器や貯蔵穴に転がり落ちた土器などが分かります。また、貯蔵穴の大きさや深さもわかります。

(大道遺跡)



## ◀ 熊の穴遺跡M-1号古墳

すでに天井石は取り去られていてありませんでしたが、石室は良く残っていました。遺骨や副葬品はほとんどありませんでした。

直径約2.5mほどの小円墳で北から西、南にかけて堀がめぐらされていました。上横俵遺跡と熊の穴遺跡には、たくさん古墳があったことが知られています。



□ 縄文時代 □ 古墳時代前期 □ 古墳時代後期 (大道遺跡)

時代区分	年代	火山・灰燼年	主な生産・農法	主な動物	新橋の遺跡	主なできごと	
旧石器時代							
縄文時代	草創期	B.C. 10000	稲久カルテラ燧石 (A下層) 浅間山燧石 (Y, P層)	狩猟・漁撈・植物採集	縄文土器	稲久保遺跡 北三木堂遺跡 須無遺跡	狩猟・採集の生活。 寒冷な気候。
						縄文土器の活用がはじまる。	
	早期	B.C. 4000				瑞沢遺跡群Ⅱ 内堀遺跡群 下鶴谷遺跡 須無遺跡	温暖な気候(海流)。 村がはじまる。
						大規模な群がつかれる。	
	前期	B.C. 3000	浅間山燧石 (D軽石)			芳賀西部団地遺跡	温暖な気候(海流)。 村がはじまる。
						大規模な群がつかれる。	
	中期	B.C. 3000				芳賀北部団地遺跡 横須遺跡群	土器が少量につかれる。 農具が見つかられる。
						土器、土版などが 盛んにつかれる。	
	後期	B.C. 2000				芳賀東部団地遺跡 芳賀北曲輪遺跡 横須遺跡群 内堀遺跡群	土器、土版などが 盛んにつかれる。
						大規模な群がつかれる。	
晩期	B.C. 2000				西新井遺跡	大規模な群がつかれる。	
弥生時代	前期				弥生土器		
	中期						
	後期						
古墳時代	前期	300	浅間山燧石 (C軽石)		水稲	上総引遺跡 内堀遺跡群 前橋天神山古墳 鎌谷遺跡	群馬台国女王鳥居群。 古墳が築かれる。
	中期	400			稲	稲久保遺跡 横須遺跡群 梅の木遺跡 横須(大遺跡群)	古代統一国家が誕生。
	後期	500			農	宝塚山古墳 山王塚寺	上野原古墳がつかれる。
奈良時代	700				金属器	芳賀東部団地遺跡	平安京に遷都。
平安時代	800					中鶴谷遺跡	
	1200		浅間山燧石 (B軽石)			稲久保水田址 女橋 富田遺跡群 前橋城車橋門遺跡	江戸幕府の成立。
近世	1600		浅間山燧石 (A軽石)			陶磁器	明治維新。
近・現代							太平洋戦争。

## 横俵遺跡群 1989

前橋市教育委員会